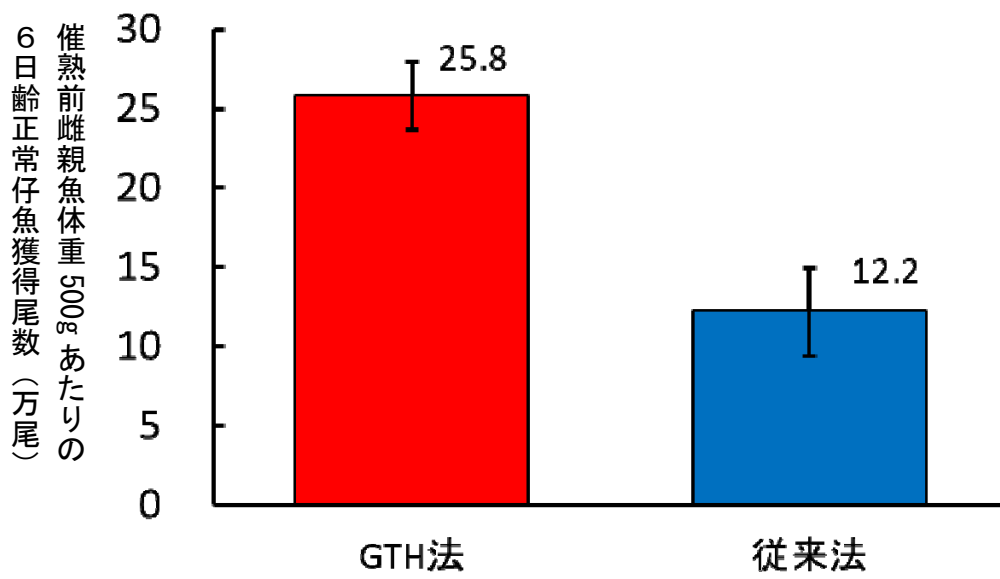
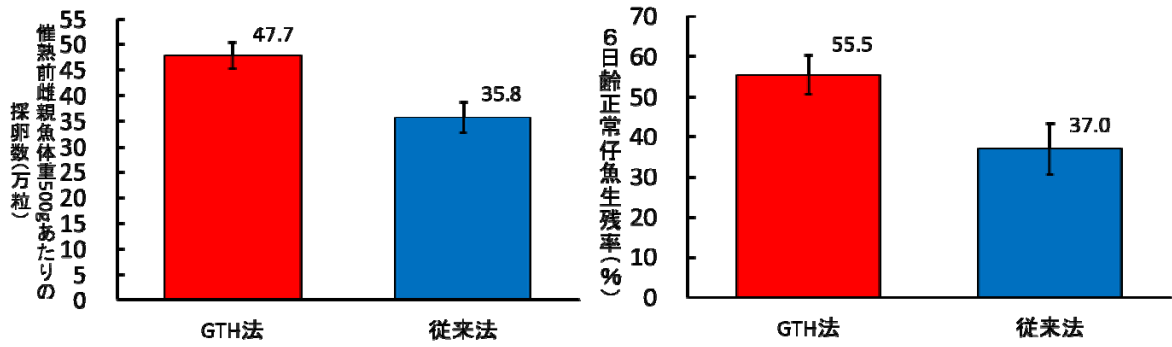


静岡県試験研究 10 大トピックス ( 水産・海洋技術研究所 )

<p>タイトル</p>	<p>1 尾のウナギ雌親魚から得られる良質なふ化仔魚数が約 2 倍に増加</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>良質なウナギふ化仔魚確保のための催熟技術改良研究 (H29～R5)</p>
<p>所 属</p>	<p>水産・海洋技術研究所 浜名湖分場</p>	<p>補職名</p>	<p>上席研究員</p>
		<p>研究者名</p>	<p>田中寿臣</p>
		<p>問合せ先</p>	<p>053-592-0139</p>
<p>研 究 概 要</p>	<p><b>【背景・ねらい】</b>                  ウナギの人工種苗生産研究では、異魚種サケのホルモン（脳下垂体抽出液）を雌ウナギに投与して人為的に成熟（催熟）させて卵を得ていたが（従来法）、成熟しない魚が出現する、成熟しても良質なふ化仔魚(形態異常が無いふ化仔魚)が安定して得られない、などの問題があった。                  これらの問題を解決するため、共同研究者である水産研究・教育機構増養殖研究所がウナギ自身から組換え生殖腺刺激ホルモン(組換え GTH※)を開発し、当研究所が組換え GTH を用いた新たな催熟技術（GTH 法）を開発した。</p> <p>※「組換え GTH」・・・遺伝子工学的手法を用いて作成した生殖腺刺激ホルモン。濾胞刺激ホルモン(FSH)と黄体形成ホルモン(LH)の 2 種類から成る。</p> <p><b>【成果の内容・特徴】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採卵直前までは、組換え FSH のみを毎週投与することにより、従来法と比べ、一度に多くの卵が得られることが分かった。</li> <li>・組換え FSH 投与を毎週投与することで、雌ウナギ自身が LH を体内に放出させることができるようになり、良質なふ化仔魚（餌を食べ始める 6 日齢での正常仔魚)の生残率が劇的に向上した（GTH 法）。</li> <li>・その結果、GTH 法により、従来法に比べて雌親魚体重 500 g あたり、約 2 倍の良質なふ化仔魚を得られるようになった。</li> <li>・さらに、GTH 法は従来法に比べて採卵可能になる時期が集中するため、計画的な採卵を行うことも可能となった。</li> </ul> <p><b>【成果の活用・留意点】</b>                  現在行っている水産庁委託事業「ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業」において、GTH法をウナギ種苗生産の標準の催熟方法として定着させていく。</p>		

\* 図、写真などについては次頁に添付をお願いします。

様式 2



写真上：正常なふ化仔魚

写真下：形態異常のあるふ化仔魚（下顎に異常がみられる）